

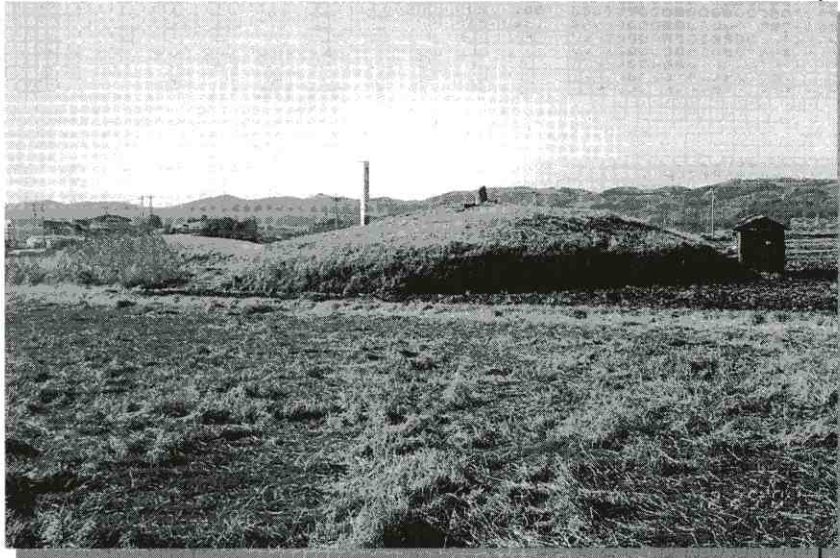


文化財愛護シンボルマーク

第1号

平成14年3月1日発行
岩沼市教育委員会
TEL 0223-22-1111
岩沼市桜1-6-20

岩沼市文化財だより



かめ塚古墳

宮城県指定文化財
昭和25年9月25日指定

市長あいさつ



井口 経明

「岩沼市文化財だより」第一号の発行を、心からお喜び申し上げます。

一昨年、石器ねつ造の発覚で、考古学そのものへの信頼が大きく揺らぎました。国民をはじめ真剣に研究を進めてきた関係者に与えた影響は、計り知れません。その後の検証作業の着手、教科書の書き直し、観光地の見直しなど、止まる所を知らない状況です。

今年に入り、市民会館を会場に宮城県遺跡調査成果発表会が開催されました。県内各地の遺跡の検証を積み重ねられてこられた成果が、詳細にわたって報告されました。歴史を考へ学ぶことは、未来を正しく導く指針になることであり、関係者の地道な努力に期待することであります。岩沼市においては、最近では教育委員会が「引込横穴墓群」の発掘調査を行い、初の調査報告書をまとめ

記録保存に努めました。

横穴古墳といえかなり前に西部の北長谷地区、竹駒神社の裏手などに、いずれも群集状態で存在していることが確認されています。

先人の生活や土地の利用などを知る貴重な手掛かりであり、その保存、それが困難な場合は学術調査などで記録に止められるよう努力が必要です。

古くから交通の要衝として栄えてきた岩沼です。歴史の紐をとけば、国府のあつた多賀城への往来時には、文化や物資の流れはいち早くこの地にたどり着いたであろうし、三百年余年前には俳聖松尾芭蕉も訪れている地です。

多くの人が行き交うなかで、情報の拠点となっていたであろうことも想像をかき立てます。

このような歴史的背景もあり、市内には多くの遺跡等が分布しています。この歴史的遺産の保護と活用を図るためには市民の皆様の文化遺産に対するご理解が何よりも大切です。このたびの「文化財だより」発行を通じ、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

かめ塚古墳

岩沼市文化財保護委員 千葉 宗久

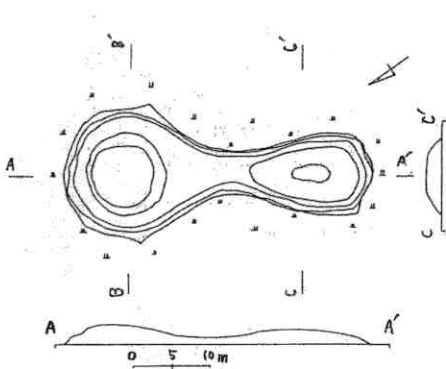
岩沼駅から電車で仙台に向かつて、踏み切りを二つ過ぎると、西側の田んぼの中に小山を眺めることができる。

これが「かめ塚古墳」であり、昭和二年九月二五日に宮城県文化財として指定を受けている。

かつては墳丘に立派な黒松が二本生えて目立っていたが、マツクイムシの被害を受けたために切られてしまい、今はない。

◇かめ塚古墳の概要

古墳の形態は前方後円墳で、墳丘上には段がなく、その表面はなだらかなカーブになっており、形が整っていて美しい。



▲かめ塚古墳実測図
(宮城県文化財調査報告書第1集)

古墳の規模は、全長が三九・三メートル、前方部幅が一〇・三メートル、後円部径が一六・三メートル、後円部高さが二・四五メートルである。

古墳は未発掘のため、内部の構造や周溝の存在については明らかでない。葺石や埴輪なども発見されていない。

出土品はないが、墳丘上から須恵器製の破片、古墳に隣接した水田から須恵器蓋の破片が表面採集されている。

しかし、残念ながらこれらの表面採集品は古墳の建造年代を決定づける遺物ではない。

◇周辺の遺跡との関連

かめ塚古墳の西側には「かめ塚西遺跡」が隣接している。

この遺跡は現状が水田や畑地になっており、弥生時代の土器破片や片刃の石斧、古墳時代・奈良・平安時代の土師器や須恵器破片が表面採集されている。

かめ塚西遺跡は隣接するかめ塚古墳と時代的にも近く、大いに関連性があると推察される遺跡である。

地面の下に古い時代の水田跡や集落跡が今も眠っている可能性が高い地域である。

かめ塚古墳の西方に位置する長岡丘陵は縄文時代から弥生時代・古墳時代

くそして現代まで連綿として人の足跡をたどることができる複合遺跡である。

特に、新明塚古墳・長塚古墳はかめ塚古墳と同時期と考えられる古墳であり、北原遺跡は古墳時代の大集落が形成されていたと推測される遺跡である。古墳とその周辺地域は宅地化などの開発が迫っている場所でもあるので計画が持ち上がったら綿密に検討し、開発するとなった場合には分布調査と試掘調査を確実に実施し、本調査や保存などの対処をしたいものである。

◇サツペ講

昔から旧北の町（中央四丁目）には「サツペ講」が続いており、火防祭が旧暦の十月二十五日に行われていた（今は新暦で実施）。

かつては、家々で新米のモチをついて、豆腐モチやアンコモチを親類や親しい人々にごちそうしたそうである。そして、夕方になると大人も子供もワラを抱えてかめ塚古墳に集まり、それで一メートル程の小屋を作ったという。

供え物をして、多宝院様にお願いをしてお祭りを行い、終わると切り火を切って一切の物を焼いたそうである。

現在も旧習を重んじる人達や北の町高砂会が中心になってサツペ講が行わ

れている。

◇まとめ

「かめ塚」は古墳時代の豪族のお墓であり、暴いてはならない聖域だった。それが作神祭の新藁を燃やすという清めの行事と、三平（三瓶氏ともいう）の伝説が結び付いて発展し現在までお祭りが続いている。

遠い昔から考古学的遺物や遺構と共にロマンの詰め込まれている「かめ塚古墳」をいつまでも大事に保存していきたいものである。

※周溝…古墳の周りの溝

※葺石…高塚の盛り土の上をおおった

石塊



▲後円部から前方部(南方向)を望む

碑めぐり手帳(一)

岩沼市文化財保護委員長 高橋 鼎

道路を歩いていると、「庚申」と太文字で彫られた石碑をよく見かける。この庚申塔は市内には幾つかあるが、特に西部・根方泉地区に存在する庚申塔は珍しく記録に値する庚申塔である。

台座から笠石までの高さは凡そ二メートル二〇センチ、そのうち棹石は高さが一三〇センチ、正面四〇センチ、側面三〇センチのもので、正面には、わざと人の意見や忠告に逆らう人を表す天邪鬼をがっしりと踏みつけた青面金剛(大威力があつて病魔・病鬼を払い除くという、顔が青く三眼六臂の像)更に童子像二体と三猿(見ざる・聞かざる・言わざる)の像が彫り出されている。側面には、「享保十七年壬子年十月十八日」と建立された年月日があり、一七三二年、二百七十年ほど前の江戸時代中期のものである。

中国土着の宗教で現世的な幸福や不老長寿を説く「道教」の教えで、千十二支を組み合わせた暦法の六十日毎に巡ってくる庚申の夜には、寝ないで一晩中徹夜する習俗行事「庚申待」に

由来する。

これは、その夜に眠ると人身中にいる三尸(三匹の虫)が抜け出して天に上り、罪を天帝に告げ命を奪われるという信仰で、わが国には平安時代に伝わり室町時代から民間に「庚申講」が発生し、江戸時代には特に盛んであった。六十年毎の庚申の年には「庚申塔」を建てるのを習いとした。



▲根方の庚申塔

庚申の申から、猿を神使とする山王信仰とも結びついた。江戸時代には、青面金剛を本尊とする庚申堂が有名となり、庚申待には村落の当番の家に集まり、長老の話や情報交換、行事の連絡など、二か月に一回の集会在定期的に催されて、村落の人々の連帯感が深められた風習は、社会生活に大変役にたった生活の知恵に違いない。普通は、庚申の年に建立されるのだが、この塔は「壬子」年であるのが不思議である。

民具 御用かご

岩沼市文化財保護委員 伊藤 礼子

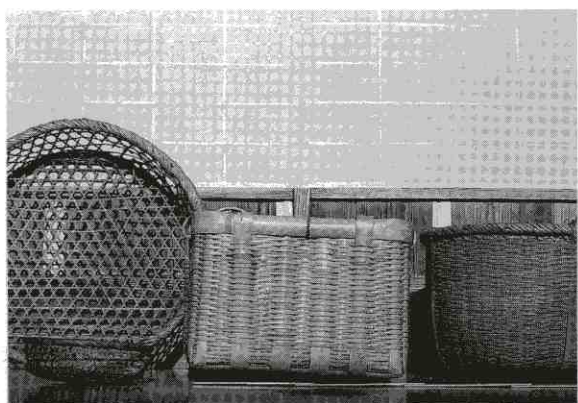
昭和二〇年代藤浪町には、籠やさんが五軒あった。御用かご専門二軒、箆やかご作り三軒が並び、籠や町と言われた時代のことである。野山に自生する竹や笹の生長は早く、木質の植物とは異り中空で割裂し易い。その性質を見極め、しの竹(アズマネザサ)は、めかごに、から竹(マダケ)は、御用かごに使い分けられてきた。

平成十二年二月藤浪町の野口籠やさんのみつのさん(大正八年生れ)にかご作りについてお聞きしたことがある。野口さんは、御用かご専門の籠やさんであった。

御用かごは、大きさによって、一番から四番まであり、一番かごは、一尺五寸、二番かごは、一尺二寸、三番かごは、一尺、四番かごは七寸で空になればひとつに収まる作りである。野良仕事の一服や弁当運びに使われた。

かごの注文は、地元がほとんどであったが、北海道の帯広、山形の酒田、福島などの遠方からの注文もあつて繁盛した。

みつのさんは、材料の残りで果物かごを作り、青や赤の化粧ヒゴを一本入れてみたり、竹駒神社前にあつた銭湯に持って行く、石けんかごまで作つたと言う。一寸した遊びであつたがうんと売れたと楽しそうに話してくれた。しかし、昭和三〇年代には竹製品にかわる塩ビ製品が出現し、かごの需要は急激に減少した。そして更に今、塩ビ製品による環境ホルモンの問題が持ち上がり、竹を素材にした箆やかごの良さが見直されようとしている。その土地で育つた素材を用いて熟練した人々の手によつて生み出された用具には、生活のぬくもりと先人の知恵が伝えられている。



▲めかご(大・小) ▲御用かご(1尺2寸) ▲こめとぎざる

今なおいにしえの風情 玉浦八景

文化財保護委員 佐々木 健美

中国・湖南省南

省の瀟湖八景にちなみ、古人が名付けたといわれ、岩

沼市の東部・仙台空港から南側一帯

の下野郷・寺島・

早股・押分地区にあたる。

矢野目落雁、東国山晚鐘、関伽江晴

嵐、阿武隈朝雪、新浜港帰帆など、玉

浦の地名から想像通りの、景勝に富ん

だ場所であった。

現在は、面影の一端を残すのみだが、のんびりした気分の時にはゆっくりと足を運んで、いにしえの風情を味わって見てはいかがですか。

一 東国山晚鐘

東国山鐘暮色晴・帶霞断続邑中鳴

雖僧撞罷点燈処・風送梅香月漸生

早股の東国山高林寺について古人が右の様な七言絶句調の漢詩を作り、その美しさをめめている。

梵鐘も立派に復元され、美しい音色を響かせている。梵鐘の中に八景の



一節がきざまれている、ぜひ一見を。

二 薬師堂秋月

待得中秋携一杯・無雲萬里桂花開

薬師堂上団々月・照却塵心凡骨来

薬師堂（早股上）の八月十五日の月

は現在も健在で散歩がてら風情を味わってみては。

三 阿武隈朝雪

雪霽天明阿武隈・四山一白奇望哉

前湾有客扁舟棹・恰似山陰逸興催

阿武隈川からの朝の雪などは、古人

のそれと同じ心境に浸れるかも。

四 関伽江晴嵐

風仏煙嵐青岸松・幾多釣客寄仙蹤

関伽江底斜陽映・露出金華青一峯

遍照寺弘法大師堂、県内一円から多

くの信者が参けいする寺で梵鐘の音色が住時をしのばせる。

五 矢野目落雁

百万提封故奥州・田饒矢野目之頭

太平有象君看取・飛去飛来鴻雁游

雁があそぶ時代と現在とを比較する

ものも一興かも。

六 長者森夜雨

七 新浜港帰帆

八 三軒橋夕照（漢詩省略）

環境も変わり、場所の特定すら難しくなっている、残念です。

「岩」に因む伝説

岩沼市文化財保護委員 田中 祥介

岩沼に伝わる伝説のうち、まちなかに因んだ「岩」の話をいくつか紹介しよう。これには石といわれるものも含みます。

昔、朝比奈三郎という大力無双の大男がいて、亘理の七畝山で畑を耕していたら、鉾に石がひっかかりました。邪魔になるので放り投げたら、その石は阿武隈川を飛び越え、千貫山に突き刺さったということでした。

さてこの石には、その後悪霊が住みついたのか、ここから沸きだす水を飲んだ者は、病気になるたり死んだりして、麓の人々は大変難儀していました。

永徳二年（一三八一年）になって、たまたまここを通りかかった旅の僧有法がこの悩みを聞き、七日七夜の加持祈禱を行ったところ、毒水は病を治す霊水に変わり、人々を助けるようになったそうです。

また千貫山には百合若伝説の鷹石や緑丸の供養碑などがあり、他に三色吉にはピッキ石があつて、金蛇さまゆかりのものと伝えられています。

一方、志賀にある岩蔵寺の石段の中ほどには、蛇石という大蛇の頭の形をした岩があつて、次のような伝説が残されています。

貞観二年（八六〇年）、慈覚さまが志賀に來たとき瑞雲を見て、薬師如来ゆかりの地と確信し、山中で如来を勧請するご祈禱を始めました。

すると龍女さまが現れたので、薬師如来を祭る場所を貸してほしいと何度もお願ひし、やっと十年間の条件でまとり証文を渡しました。

十年後、慈覚さまはこの地で龍女さまに会い、返済をせまれましたが、証文の十の字の上に点のあることを根拠に、これは千年だといって土地を返しませんでした。

龍女さまは怒って、大蛇の姿となり、二人の戦いは三日も続きましたが、龍女さまは敗れ、蛇の姿のまま死んでしまい、石になったのだと伝えられています。

まちには、こうした場所もありますので、周辺を整備して紹介したり、まちに伝わる伝説や昔話などを新たにまとめておいた方がいいのではないのでしょうか。

ご意見・ご感想をお待ちしております。
岩沼市教育委員会生涯学習課
内線573